

医薬翻訳サービス

関連記事3〜8面

翻訳への生成AI活用と課題

アジア太平洋機械翻訳協会(AAMT)会長 安達 久博氏に聞く



翻訳への生成AIの活用と課題は？アジア太平洋機械翻訳協会(AAMT)の安達久博会長(サン・フレア代表執行役員)にインタビューした。来年35周年を迎えるAAMTの企画についても聞いた。

——翻訳への生成AI活用についての現状認識は。

生成AIによる翻訳は、かなりホットなトピックだ。一方、まだ問題も多い。最初は原文にない訳語が入ってくる「湧き出し」が問題になったが、今度はその逆で、訳がとんでも流暢になったけれども、重要なところ箇所の訳が抜けている「訳抜け」、意味が異なるケース、文脈の取り違えといったケースが出てきている。そのため、AIによる訳をプロの翻訳者がチェックし整えていくポストエディット(PE)の重要性は高い。

——そこでAAMTは7月に「機械翻訳ポストエディットガイドライン」(写真)を作成し、公開した。ポストエディット委員会には専門家や翻訳会社の方だけでなく、製薬企業の方にも入っている。

——ガイドラインの内容は。

業務の委託側(製薬企業等)、受託側(翻訳企業等)、実際にPEを行う翻訳者を対象に、英語から日本語への翻訳(ファイルの種類はWord)を行うことを想定し、PEとは何か、いかにリスクを低減し、三者がいかに満足する翻訳を行うのかを目的にまとめた。そのためのプロセスのフロー図も作成した。

——まずPEにどの程度の品質を求めるのかを三者で合意した上で進めること。そこでPEについて「フルPE」と「ライトPE」を定義づけた。

フルPEは「専門の翻訳者による翻訳と同等の品質を目指す」とし、「ライトPE」は「翻訳者の翻訳と比べ、翻訳処理のスピードを重視してフルPEに含まれる作業項目の一部を省略したり簡略



PEガイドライン

化したりする」と、それぞれ定義し、PEで何を修正し、省略するかを合意し、三者で翻訳の品質をすり合わせることを促している。

——さて、話は変わってAAMTは来年には創立35周年。振り返りを。機械翻訳(MT)については創立前に遡るが、1982年、当時の科学技術庁のMu(ミュー)プロジェクトにおいて、日本初の実用的日英機械翻訳システムの研究があり、私も参加させていた。AAMTの創立者である京都大学の長尾真名譽教授(故人)から直接ご指導いただく機会に恵まれたほか前会長の隅田英一 郎氏もおられ、のちのちの人工知能、MT分野の指導的立場になる研究者が集まっていた。

来年はAAMT 35周年

奈良で国際会議を予定

作業の開始前にこの品質基準を明確にしておかないと、こんなはずじゃなかったということになりかねない。翻訳の品質不良の原因と対策も示した。

PEは依頼内容の目的に応じて、最適な品質、コスト、納期を勘案し、何を重視するのかによって、PEで行うことが変わっている。

——使い方は。

対象の三者の方にはぜひ読んでいただき、認識を共有していただきたい。翻訳企業の方々にはクライアントへの説明の際に持参し、事前の品質合意を徹底することを勧めたい。

私もうだが、計算機メーカーの研究者が多かった。日本語を表示できるパソコンすらなかった時代で、そこで計算機のMTソフトが脚光を浴び、ソフトとしてMTの発展に向け議論する世界組織を作ろうと、1991年に国際機械翻訳協会(IAMT)が設立された。

——35周年企画の予定は。

来秋、奈良で国際会議の開催を予定している。テーマはアジア言語に特



「AAMT 2025 Tokyo」(年次大会)が12月2日、東京・日本橋で開催された。パネルディスカッションではMSDのメディカルアフェアーズ部門・大村雅之氏が、医薬品開発ではスピードが求められ、ポストエディット(PE)の潜在ニーズは大きいと指摘し、AAMTが作成した「PEガイドライン」の活用を寄せた。

目次

- P 3……【インタビュー】
AAMT 安達会長
- P 4～5…サン・フレア
国際医学情報センター
アスカコーポレーション
- P 6～7…日本特許翻訳
memoQ
MCL
ウィズウィグ

生成 AI・機械翻訳(MT)の実利用に関する最新情報をお届けします。

AAMT は、機械翻訳の発展を目的として機械翻訳の研究者、提供者、利用者からなる組織です。最新情報の発信をはじめ機関誌の発行や年次大会を開催しています。

本紙読者限定！
入会金免除キャンペーン実施中

本紙を読んでAAMTに入会を希望された方には、入会金免除！この機会にご入会を！ ※キャンペーン期間 2025年12月26日迄。



ご入会は下記 URL へアクセスし、コメント欄に「薬事日報での入会免除希望」とご入力ください。
<https://www.aamt.info/about/admission/>

ポストエディットガイドラインを無料公開中。
<https://aamt.info/act/posteditguideline>



AAMT は 2026 年で創立35周年。
国際会議を 2026 年秋に開催(予定)。詳細は公式サイトにて。
<https://www.aamt.info/>



AAMT
Asia-Pacific Association for Machine Translation
アジア太平洋機械翻訳協会

一般社団法人アジア太平洋機械翻訳協会 お問い合わせ先: aamt-info@aamt.info

〒160-0004

東京都新宿区四谷 4-7 新宿ヒロセビル 5F 一般社団法人アジア太平洋機械翻訳協会(AAMT)事務局